レニーとジェイク

1

ねらわれた王女

ヘーゼル・タウンスン作　久米 穣訳　竹山のぼる絵

NDC930 タウンスン，ヘーゼル
レニーとジェイク①
ねらわれた王女
久米　穣・訳　竹山のぼる・絵
フレーベル館1985　120P　22cm

THE GREAT ICE-CREAM CRIME

Copyright © 1981 by Hazel Townson

Fitst published in 1981 by Andersen Press Limited
Japanese translation rights arranged with Andersen press Limited
through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo
Japanese edition published by Froebel-Kan co., ltd., Tokyo

レニーとジェイク①
ねらわれた王女
一九八五年十一月　第一刷発行

作　者　H・タウンスン
訳　者　久米　穣
画　家　竹山のぼる
発行者　鹿島　博
発行所　株式会社フレーベル館
東京都千代田区神田小川町三―一
〒一〇一　電話　東京二九二―七七八五（代表）
振替　東京九―一九六四〇
印刷所　凸版印刷株式会社

ISBN4-577-01171-9 C8393 Printed in Japan.

レニーとジェイク
1

ねらわれた王女

ヘーゼル・タウンスン作　久米穣訳　竹山のぼる絵

ブレーベル館

ねらわれた王女

■もくじ

一、にげたレニー……5
二、五つ星おばさん……20
三、地下室でどっきり……53
四、教会のがらくた市……73
五、かくれんぼは、スポンサーつき……77
六、まっ黒けのお化け……90
七、五つ星の王女さま……106

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

装丁／安彦　勝博

1　にげたレニー

「ジェイク、おれ、あしたの朝、ずらかるから、よろしくな」

学校から、かえるとちゅうで、なかよしのレニー・ハーグリーブスが、とんでもないことを、いいだしたので、ジェイク・アレンは、びっくりしてしまいました。

「おい、おい、レニー、きみ、あすがどんな日だか、しっているのか。このマンチェスターで一番のりっぱな病院ができたので、開院式がおこ

なわれるんだ。そのうえ、ロンドンから、はるばる王女さまが、おいでになるから、町じゅうの小学校のせいとたちは、道のわきにならんでおむかえしなさいって、校長先生がおっしゃったじゃないか。それとも、王女さまを、おむかえするよりも、もっとだいじな用でもあるのかい？」

レニーは、うなずくと、

「おれが、魔術の名人になりたいことは、ジェイク、きみもしっているだろう。」

「うん。」

「名人になって、テレビに出て、世界じゅうの人を、あっといわせるには、だれも見ていないところで、こっそり練習するっきゃないんだ。だから、おれ、深い森のおくのいつものところにゆくのさ。あそこなら、

鳥しか見てないからな。」
「そうか、じゃ、しかたない。ぼく、だまっててやろう。」
「うん、それでこそ、ともだちだぜ、ジェイク、おれが、ゆうめいになったら、きみを助手にしてやらあ。」
「ごめんだね、レニー。ぼく、きみが、ぼうしからとりだす、スパゲッティを、あたまから、かぶって、みんなから、わらわれたくないもん。それより、切手あつめのほうが、よっぽどおもしろいや。」
「じゃ、かってにしな。」
でも、それもいいのです。みんなが、おなじことしたって、おもしろくないではありませんか。
さて、あくる日は、すばらしい夏の日でした。コッブストリート小学

校のせいとたちは、新しい病院がたっている丘にむかって、行進していきました。欠席はふたりです。ひとりは、にげたレニー、もうひとりは、水ぼうそうで休んだ、女の子のエリカ・カールでした。

病院の前には、広い野原がひろがり、こんもりした森がありましたが、せいとたちは、野原にせなかをむけて、せいれつさせられました。しかも、むかしから、仲のわるいセントバーナード小学校のせいとたちの、すぐとなりのせまいところに、むりやり、おしこまれたのですから、ぶじにすむはずがありません。

「もっと、あっちへいけ！」

「なんだ、あとからきたくせに。」

もう、たいへんな、さわぎになってしまいました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

しばらくは、それで、たいくつもしなかったのですが、やがて、あつくはなるし、のどはかわくはで、みんなは、ぶうぶういいだしました。おまけに、そばの野原に、ゆうめいなルシーのアイスクリーム・カーがとまって、おきゃくをまっているというのに、いんそつの先生は、

「列をはなれて、買いにいってはいかんぞ。」

と、いじわるなことをいうのです。

そして、王女さまのつくのが、おくれるという知らせをきいては、みんなは、いっせいに、からだを、ゆすりだしました。

「ちえっ、こんなことなら、ぼくも、レニーといっしょに、ずらかって、森にいくんだった。」

ジェイクは、こうかいしました。そこで、なんとか、先生の目をぬす

んで、にげだせないかと、チャンスをねらいました。

こちらは、にげたレニー。森のおくふかくにある、ブナの木のねもとの、いつものばしょにきていました。おりたたみ式のテーブルを、ブナの木の下にくみたてると、板チョコを、はんぶんほどかじりました。それから、おほんと、せきばらいして、

「さあて、みなさん、きょうは、はじめのお金が、十ばいになる、とっときの魔術をおめにかけましょう。まず、この半ペニー銅貨を、5ペニー玉にしておめにかけましょう。

では、テーブルの上に銅貨をのせます。それから、きれをかぶせまして、さいごにマジックバトンを、この上にかざして、じゅもんをとなえます。」

レニーは、マジックバトンをうちふると、
「ジン、ザン、ゼン！半ペニー銅貨よ、十ばいの5ペニー玉になれっ！」
きれを、さっとはらうと、半ペニー銅貨と5ペニー玉が、なかよくならんでいました。銅貨のほうは、きえていなければならないのでした。
けれども、みらいの魔術王は、こんな、小さいしっぱいは、気にせずにつづけます。
「では、つぎにこの5ペニー玉に、きれをかけて、もういっぺんやってみましょう。ジン、ザン、ゼン、十ばいになれっ！」
もういちど、レニーは、きれをはねのけて、5ペニー玉を、消してみせようとしました。
でも、あんまりいきおいよく、きれをはねのけたので、5ペニー玉は、

MAGIK

空中をとんで、どこかに見えなくなってしまいました。

「ひゃー、こんげつのおこづかいが。」

レニーは、あわててさがしにいきました。

5ペニー玉は、うまいぐあいに、一まいの紙きれのそばに、おちていました。

「ああ、よかった。」

ひろおうとしたレニーは、はっとしました。

紙きれに見えたのは、なんと、5ポンド札だったのです。

レニーは、そのお札が、風でとばないように、バトンをおもしがわりにおきましたが、またまた、ドキッとしました。すぐそばの木の下のシダのしげみの中に、なにやら、青い大きなものが、はんぶんかくれてい

るではありませんか。

それは、ふくれあがったショッピングバッグのようでした。でも、こんな深い森の中のシダの中にかくしてあるなんて、あまりにも、ふしぜんではありませんか。じげんばくだんかもしれません。レニーは、おそるおそる、そのバッグをかんさつしました。

すると、とつぜん、一羽の鳥が、チッ、チッ、チッとにぎやかにさえずりながら、バッグの上にまいおりました。それから、ジッパーの上を、ちょん、ちょんとんで、かたほうのとってを、くちばしでつつきだしました。

「と、いうことは、ばくだんじゃないしょうこだ。」

レニーは、ちょっぴり、がっかりしました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com